千葉市

記者発表資料

千葉開府900年 千の葉に 時を刻んで 900年

令和８年１１月１７日
都市局公園緑地部
動物公園
電話　２５２－７５６６

動物科学館に新たな種が仲間入りしました！
～オオハナインコとウスイロホソオクモネズミが仲間入り～

千葉市動物公園では、動物科学館のバードホールに公益財団法人イオン環境財団から寄贈されたオオハナインコが、夜行性動物展示場に埼玉県こども動物自然公園から搬入されたウスイロホソオクモネズミが加わりました。

このたび、１１月１９日（木）からオオハナインコ２羽とウスイロホソオクモネズミ２頭を一般公開しますので、お知らせします。

１　個体情報

（１）来園日

オオハナインコ　令和８年１０月２９日

ウスイロホソオクモネズミ　令和８年１０月２６日

（２）搬入元

オオハナインコ　公益財団法人イオン環境財団（寄贈）

ウスイロホソオクモネズミ　埼玉県こども動物自然公園

（３）展示個体

ア　オオハナインコ

オス　１羽　メス　１羽

生年月日　オス　２０２６年７月９日

メス　２０２６年７月３日

イ　ウスイロホソオクモネズミ

オス　１頭　メス　１頭

生年月日　オス　２０２１年４月１２日

メス　２０２１年１０月１１日



オオハナインコ



ウスイロホソオクモネズミ

２　展示開始日

令和８年１１月１９日（木）

※動物の状況によっては、展示を休止することがあります。

３　展示場所

千葉市動物公園（若葉区源町２８０）

オオハナインコ　動物科学館　バードホール

ウスイロホソオクモネズミ　動物科学館　夜行性動物展示場

＜参考＞

１　オオハナインコについて

（１）保護状況

ＩＵＣＮレッドリスト　ＬＣ（低危険種）

（２）特徴

オオハナインコはオウム目インコ科オオハナインコ属に分類され、全長約３５～４２ｃｍ、体重約４００～５５０ｇで、オスメスで全く違う体色をしているのが特徴で、昔はオスメスが別種と考えられていました。オスは明るい緑色で、脇の赤い羽毛と上嘴（うえくちばし）のオレンジ色が目立ちます。メスは、頭部から前胸部が鮮紅色で腹部が青色または紫色で、翼は暗赤色、嘴は黒色です。

（３）生態

主に低地の熱帯雨林に生息しますが、マングローブ林や沼沢林、乾燥林などにも現れます。果物や種子、ナッツそれに木の芽などを採食し、高木の樹洞に営巣します。一妻多夫または多夫多妻で繁殖するというオウム、インコ類では珍しい繁殖生態を持っています。

（４）分布

インドネシア東部の島々、ニューギニアとその周辺、オーストラリア北部

（５）飼育頭数

ア　千葉市動物公園　オス１羽　メス１羽　計２羽

イ　国内飼育頭数（５施設）オス６羽　メス３羽　計９羽

※日本動物園水族館協会資料（２０２５年１２月３１日現在）

２　ウスイロホソオクモネズミについて

（１）保護状況

ＩＵＣＮ　レッドリスト　ＬＣ（低危険種）

（２）特徴

ウスイロホソオクモネズミは齧歯（げっし）目ネズミ科ホソオクモネズミ属に分類され、体長３０～４５ｃｍ、尾長２８～３５ｃｍ、体重２～３ｋｇほどもあるネズミ科では最大の種類です。全身が荒い被毛で覆われ、基本は白色ですが、個体によってチョッキを着たような黒斑があったり、目や鼻の周囲が黒かったりといった個体によるバリエーションがあります。

（３）生態

標高９００メートル以下の熱帯雨林が主な生息地であり、夜行性で、主に樹上で活動しますが、時には地上も徘徊します。単独または家族群で生活し、昼間は樹洞や朽ちた枝の中、時には地面の穴で休みます。草食性で、果物や木の葉、木の芽などを採食します。

（４）分布

フィリピンのルソン島中部から北部（固有種）

（５）飼育頭数

ア　千葉市動物公園　オス１頭　メス１頭

イ　国内飼育数（５施設）オス１２頭　メス７頭　計１９頭

※日本動物園水族館協会資料（２０２５年１２月３１日現在）